メイディ・モーハウス作

東日本大震災復興祈念
ブロンズ像 10 年の歩み

護(まも)る

仙台(せんだい)

復興(ふっこう)

発行：仙台リバサイド交流連絡会・緑の館絵画を楽しむ会

目次

はじめに 2
東日本大震災復興祈念ブロンズ像 10 年の歩み 3
メイディ・モーハウスさんのメッセージ 5
メイディ・モーハウスさん　アトリエにて 6
メイディ モーハウスさん の紹介 7
ベイリー・リバサイド市長のメッセージ 8
MAIDY MORHOUS – Bronze Sculptors for the people of Japan 9
緑の館絵画を楽しむ会展示室にて 12
趣　意　書 13
震災復興祈念ブロンズ像贈呈式のご案内 13
震災復興祈念ブロンズ像贈呈式の流れ 15
震災復興祈念ブロンズ像贈呈式出席者名簿 16
ブロンズ像贈呈式ご挨拶 17
震災復興祈念ブロンズ像贈呈式 19
ブロンズ像贈呈式懇親会 24
河北新報に載る 27
メイディ・モーハウス　in　仙台 28
ブロンズ像 10 年の歩み 36
“東日本大震災復興祈念ブロンズ像 10 年の歩み” に寄せて 46

はじめに

「東日本大震災復興祈念ブロンズ像 10 年の歩み」制作にあたって

仙台リバサイド交流連絡会（オレンジクラブ）

会長　鈴木健治

　東日本大震災復興を祈念して作成された 3 体のブロンズ像が、仙台にやってきたのは大震災から約 2 年後の 2013 年 1 月 25 日のことでした。

当初、ブロンズ像を美術館や博物館などの公的施設で展示していただこうと鈴木和美氏とともに奔走いたしましたが、願いかなわず、「仙台敬老奉仕会」にお引き受けいただくことになりました。

そのうえで、ブロンズ像をできるだけ多くの皆様に鑑賞していただく最善の策として、鈴木和美氏が代表となっている「緑の館絵画を楽しむ会」に拠点となっていただきました。

それ以来今日まで、緑の館絵画を楽しむ会を中心として様々な場所において、様々な方々のご協力をいただきながら、ブロンズ像を紹介してまいりました。、

　この冊子は、ブロンズ像が仙台に到着したときから今日までの 10 年間の、ブロンズ像の歩みをまとめたものです。

これからも、作者モーハウス氏からの伝言「いつか、自分の子どもたち（ブロンズ像）が公的施設に展示される日が来ることを願っています」が実現できるように努めてまいります。

「ブロンズ像の無言の言葉」

緑の館絵画を楽しむ会

代表　鈴木和美

緑の館絵画を楽しむ会展示室にメイデイ・モーハウスのブロンズ像を展示してから 10 年の歳月が過ぎようとしています。

振り返ってみると、ブロンズ像の作品は未来の人々への「慈愛のメッセージ」なのかも知れません。

愛するとは、かけがえのないものを知る事から始まります。

愛は、お互いの愛を持って形作られていきます。

慈しみ助け会っていく内に「愛と平和の世界」へ導かれていくように思えるのです。

東日本大震災復興祈念ブロンズ像 10 年の歩み

年月日	場所	備考
2013 年 1 月 25 日	ブロンズ像、仙台到着	仙台敬老奉仕会事務所
2013 年 1 月 25 日	緑の館絵画を楽しむ会展示室にブロンズ像を設置	
2013 年 2 月 7 日	緑の館絵画を楽しむ会が宮城テレビＯＨバンデスの取材を受けた際、ブロンズ像のことも紹介	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2013 年 3 月 7 日	メイディ・モーハウス氏来仙	同行：キャメロン・モーハウス ブシェ洋子
2013 年 3 月 8 日	ブロンズ像贈呈式 懇親会 夕食会	仙台国際センターにて 参加者：38 名
2013 年 3 月 9 日	松島観光	
2013 年 3 月 10 日	被災地視察 加藤新一宅訪問	荒浜慰霊塔
2013 年 3 月 11 日	追悼式参列	仙台国際センター
2013 年 3 月 12 日	離仙	
2013 年 5 月 18 日	第 1 回絵画とリュートを楽しむ会にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2013 年 10 月 5 日	第 2 回絵画とリュートを楽しむ会にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2014 年 3 月 11 日～	東北福祉大学に貸し出し	
2014 年 3 月 12 日	東北復興次世代エネルギー研究開発プロジェクト特別講演会開催。ロビーにブロンズ像展示。	東北福祉大学「けやきホール」
2014 年 3 月 15 日	日野原重明氏（聖路加国際メディカルセンター理事長）、石飛幸三氏（芦花ホーム常勤医）、川島みどり（日本赤十字看護大学名誉教授）の講演会。ロビーにブロンズ像展示。	東北福祉大学「けやきホール」
2014 年 5 月 24 日	第 3 回絵画とリュートを楽しむ会にてブロンズ像展示	スタジオ「ロゼッタ」
2014 年 7 月 26 日	第 4 回絵画とリュートを楽しむ会にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2014 年 9 月 14 日	【新老人の会】第８回ジャンボリー宮城大会 ・日野原重明先生　講演会 ・詩朗読チエロ演奏 ※　参加者 2,100 名	仙台サンプラザ

2014 年 10 月 18 日	第５回絵画とリュートを楽しむ会「みちのくむかしばなしとリュート」にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2015 年 5 月 30 日	ベイリー・リバサイド市長以下公式訪問団歓迎パーティにてブロンズ像展示	仙台国際センター
2015 年 11 月 16 日～11 月 21 日	相馬高校 OB とその仲間の芸術家と相馬高校美術部の合同展にてブロンズ像展示	相馬高校
2016 年 10 月 10 日	せんだい地球フェスタ 2016 にてブロンズ像展示	仙台国際センター
2018 年 5 月 19 日・6 月 23 日・7 月 21 日・8 月 25 日･9 月 22 日･10 月 20 日・11 月 17 日・12 月 22 日	「目からウロコの講演＆癒しのピアノコンサート」にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2019 年 1 月 13 日	オレンジクラブ会長鈴木健治モーハウス氏宅訪問	サンディエゴ市
2019 年 4 月 21 日・6 月 22 日・9 月 21 日・12 月 22 日	「目からウロコの講演＆癒しのピアノコンサート」にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2019 年 10 月 5 日	第６回絵画とリュートを楽しむ会にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2020 年 7 月 3 日	吉永馨氏、ブロンズ像鑑賞のため来訪	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2020 年 7 月 19 日・11 月 22 日・12 月 13 日	「癒しのピアノコンサート」にてブロンズ像展示	緑の館絵画を楽しむ会展示室
2022 年 10 月 8 日	第 7 回絵画とリュートを楽しむ会にて絵画・ブロンズ像を前にリュートを奏でる	緑の館絵画を楽しむ会展示室

メイディ・モーハウスさんのメッセージ

The Sea beneath rise
Crying screaming flood the land
Weeping willow tree

I arrived in Japan March, 2011 to visit a society infused by elements of nature, honor, grace and ritual. As an artist, I came away with an admiration and great respect for the people; their sense of order, beauty, and love of nature. Little did I know that I would be part of one of the most devastating natural disasters in the history of Japan.

Having experienced the Great Tohoku Earthquake 3/11/11; watching the subsequent tsunami, I felt true helplessness. I came away from the experience totally distraught knowing I needed to do something for the people.

As a sculptor, I created a series of three bronze sculptures, so future generations and visitors alike will not forget the devastation this community endured. The sculptures titled Mamoru, Sendai, and Fukkou are the embodiment of feelings and emotions, thus they are meant to be symbolic rather than representative. The fright and fear of the people that day is portrayed through Mamoru. Sendai symbolizes the overwhelming helplessness of a people totally inundated by the forces of nature. Fukkou, the third in the series, signifies the resurgence of the people while resurrecting their lives and their city; to return to a balanced peace, harmony and tranquility.

The sculptures are meant to be a physical reminder to future generations of the devastation that day, while symbolizing the ability of a people to move forward, while never forgetting.

Maidy Morhous 3/8/2013

メイディ・モーハウスさん　アトリエにて

メイディ　モーハウスさん の紹介

学　歴

- ✧　カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（版画・彫刻）
- ✧　南カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校で修士研究

指導歴

- ✧　ロングビーチ美術館で版画制作
- ✧　サンディエゴ校で講座
- ✧　サンタフェスプリングダイアログ 18 回芸術祭審査員
- ✧　その他

出　展

- ✧　第 123 回 NAWA 展（ニューヨーク）
- ✧　アート・モナコ２０１２に選抜
- ✧　第３回全米彫刻展（エイボン）
- ✧　第 14 回南西地区芸術祭最優秀賞（ロサンゼルス）
- ✧　カリフォルニア・サウスウェスト・ナショナル・ファイン・アート・ショー　第 2 位（ロサンゼルス）
- ✧　アート‘７８　国際アートフェア（ワシントン DC）
- ✧　カリフォルニア州立大学美術館で個展
- ✧　その他

所　属

- ✧　全米彫刻協会
- ✧　サンディエゴ美術館芸術家協会理事
- ✧　サンディエゴ美術協会（SDAI）
- ✧　全米女性芸術家協会（NAWA）

所　蔵

- ✧　スミソニアン協会アーカイブ
- ✧　メトロポリタン美術館
- ✧　グッケンハイム美術館
- ✧　ホイットニー美術館
- ✧　シカゴ美術館
- ✧　連邦議会図書館
- ✧　ミュージアム・オブ・ウーマン・イン・アーツ（ワシントン DC）
- ✧　国際現代アーティストⅣ、ICA 出版
- ✧　ロングビーチ美術館
- ✧　カリフォルニア州立大学美術館
- ✧　カブリロ美術大学
- ✧　その他

◎　第 20 回日本国際美術交流会展において優秀作品賞受賞（2021 年 8 月 3 日）

ベイリー・リバサイド市長のメッセージ

CITY OF RIVERSIDE

February 28, 2013

MESSAGE FROM RIVERSIDE MAYOR WILLIAM "RUSTY" BAILEY

As you get ready to dedicate the bronze sculptures created by Maidy Morhous in commemoration of the devastating 2011 earthquake and tsunami that took the lives of so many and fractured the lives of so many others, know that the bonds between our two communities and cities are strong. They are as strong as the time in 1951 when Mrs. Shizue Ohwaki visited the bedside of James Halverson in a Sendai hospital, as strong as in 2007 when we celebrated the 50th anniversary of the Sister City relationship between Riverside and Sendai, and as strong as in March and April, 2011 when Riverside rose as one to answer the call of the Sendai community in the aftermath of the earthquake and tsunami.

Our relationship is strong because of citizens dedicated to the Sister City cause—citizens like Maidy Morhous, International Relations Council (IRC) Sendai Committee Chair Yoko Boucher, Chairman Kenji Suzuki and members of the Orange Club, Dr. Kaoru Yosjinaga, Mr. Kazumi Suzuki, Mrs. Kimiyo Hozawa, SIRA, Sendai Mayor Emiko Okuyama and her administration, Riverside City Council and Mayor's Office, and countless others. My own inspiration and support for the Sister City program and the International Relations Council come from my great aunt and IRC President Edna Lockhart. The Sendai relationship was close to her heart.

I know that the Riverside-Sendai relationship will continue to grow stronger, and our bonds even closer, because of dedicated Sister City volunteers and friends gathered here at SIRA for the dedication of Morhous sculptures.

PRIDE IN RIVERSIDE AND SENDAI!

William "Rusty" Bailey
Mayor

MAIDY MORHOUS – Bronze Sculptors for the people of Japan

Mamoru (to protect);

Is the first in the Tohoku Series and represents a woman clutching her child as she frantically runs from the overpowering torrent of the Tsunami.

Water slicks off her leg, clothes and hair soaked, and the look of pure terror upon her face. The people of Sendai were caught totally off guard when the Tsunami hit 45 minutes after the 9.0 earthquake in their region.

Sendai;

The second bronze in the series, represents the people of Sendai overwhelmed by the horrific event. Thousands of Sendai people perished because they were caught totally unaware of the impending danger, or not get out of its way.

Fukkou (resurgence);

The third in the series symbolizes the people of Sendai pushing forward, persevering, resurrecting their lives and their city.

One of the Japanese's foremost values is that of respect; respect for their elders, nature, and sense of order.

The Japanese will moan their dead, respect the destructive force of nature and then diligently work to return to a balanced peace, harmony and tranquility.

Artist Statement:

"The act creating is an emotional release; it centers one, giving an inner peace which allows us to reflect no only on who we are but how we think and feel. I realize now, that the pride of being an artist comes not from what one sells, butt the inner peace one derives from the act of creating."

緑の館絵画を楽しむ会展示室にて

2013 年 3 月 1 日

趣　意　書

「緑の館絵画を楽しむ会」は、「絵画鑑賞が好きな人に絵画鑑賞を楽しむ機会を与える、絵画鑑賞が東日本大震災で傷ついた心に癒しを与える、画家が生死を超えてでも伝えたいという願いを叶えるため展示する」ことを目的に、東日本大震災後の平成 24 年 1 月に設立された絵画ボランティア団体です。

東日本大震災の復興に際し、国内外から様々な形での支援をいただきました。特に仙台市と５５年以上の長い友好の絆を育んできた国際姉妹都市米国カリフォルニア州リバサイド市からは、多くの市民から募った多大な見舞金（約 5, 000 万円）が仙台市に贈られました。

さて、サンディエゴ在住のメイディ・モーハウスさん（ブロンズ彫刻家：リバサイド国際交流委員会仙台委員会の特別会員）は、大震災当日、東京に滞在しており、言葉に出ないほどの強い悲しみと衝撃を受けて帰国いたしました。

その思いを後々の人々に伝えるためにブロンズ像３作品を制作され、仙台市民のために寄贈することを望んでおられました。

ブロンズ像は、ＮPO 法人「仙台敬老奉仕会」に寄贈されましたが、将来的には公的機関に寄贈されることを期待しながら、当面の間「緑の館絵画を楽しむ会」が保管・展示することとなりました。

寄贈されたブロンズ像は、「まもる（護）」「せんだい（仙台）」「ふっこう（復興）」の３作品で、「子供を抱きしめて必死に逃げようとする母親」、「恐ろしい出来事に打ちのめされた仙台の人たち」、「仙台の人たちが前向きに粘り強く立ち上がろうとしている姿」を表現しています。

今後、様々な場所・機会におけるブロンズ像の展示を通して、微力ながら震災復興の一助になれば幸いと考えています。

この事業は、長年リバサイド市と密接な友好関係を築いてこられた関係機関や関係団体の協力をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、是非ご協力賜りますようお願いいたします。

平成 25 年 1 月吉日

仙台リバサイド連絡協議会（オレンジクラブ）
会長　鈴木健治

緑の館絵画を楽しむ会　代表　鈴木和美

震災復興祈念ブロンズ像贈呈式のご案内

東日本大震災当日、ブロンズ彫刻家メイディ・モーハウスさん（リバサイド国際交流委員会仙台委員会の特別会員、サンディエゴ在住）は、東京に滞在しており、言葉に出ないほどの強い悲しみと衝撃を受けて帰国いたしました。

メイディさんは、その思いを後々の人々に伝えるためにブロンズ像３作品「まもる（護）」「せんだい（仙台）」「ふっこう（復興）」を制作され、仙台市民のために寄贈することを望んでおられました。

このたび、ブロンズ像は NPO 法人「仙台敬老奉仕会」が受贈することになりましたが、当面の間「緑の館絵画を楽しむ会」が保管・展示することになりました。

このたび、ブロンズ像の制作者メイディ・モーハウスさんがブシェ洋子さんを伴って仙台を訪問されます。

この機会に、「震災復興祈念ブロンズ像贈呈式」を下記のとおり開催いたしますので、是非ご出席賜りますようご案内申し上げます。

記

■　贈呈式と懇親会

日　時　平成 25 年 3 月 8 日（金）　午後 3 時 30 分から

場　所　仙台国際センター交流コーナー

会　費　無料

備　考　贈呈式終了後、研修室で懇親会を行います。
贈呈式と懇親会には、どなたでも参加できます。

■　夕食会

日　時　平成 25 年 3 月 8 日（金）　午後 5 時 30 分から

場　所　仙台国際センター内レストラン「ラ・フォーレ」

会　費　3,000 円　（当日）

備　考　夕食会へ参加ご希望の方は、準備の都合がございますので、2 月２８日（木）までに、
鈴木健治または鈴木和美あてご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平成 25 年 2 月吉日

発起人　吉永　　馨
発起人　朴澤　公代
発起人　鈴木　健治
発起人　鈴木　和美

お問い合わせ・申し込み

鈴木健治　携帯：080-3334-5932　e-mail：kenji_suzukijp@yahoo.co.jp

鈴木和美　携帯：090-5185-3129　e-mail：midorinoyakata@aria.ocn.ne.jp

震災復興祈念ブロンズ像贈呈式の流れ

１．目的・日時・場所等については別紙「震災復興祈念ブロンズ像贈呈式のご案内」のとおり

２．来賓

ブロンズ像制作者メイディ・モーハウスさんとその子息及びブシェ洋子さんの３名

３．式全体の流れ

贈呈式　：　午後３時 30 分開始

（１）　開会
（２）　発起人挨拶（経過・趣旨説明）・作品紹介
（３）　ブロンズ像贈呈　（メイディさんから鈴木和美へ「額入りメッセージ」）
※吉永馨は所用の為遅れる
（４）　寄贈者から一言：メイディ・モーハウス
（５）　受贈者から一言：鈴木和美
（６）　リバサイド市長からのメッセージ紹介　（ブシェ洋子さん）
（７）　閉会
（８）　作品鑑賞
※　贈呈式終了後、展示物は懇親会場へ移動する。

懇親会　：　午後４時開始

（１）　開会
（２）　ブシェ洋子さんから一言
（４）　メイディさんの動画メッセージ紹介　※パソコン・プロジェクター使用
（５）　乾杯
（６）　懇親　（ジュース・お茶・お菓子）
（７）　閉会
※　懇親会終了後、後片付け。ブロンズ像等展示物は車へ。

夕食会　：　午後５時 30 分開始

（１）　５時 30 分頃、吉永馨が到着する予定。
（２）　吉永馨の一言挨拶のあと食事
（３）　食事終了次第、解散

備考

１．国際センターからお借りするものは、ブロンズ像を展示するための「テーブル」と看板・趣意書・作者紹介文書を貼る「パネル」。
２．テーブルクロス、パソコン・プロジェクター、ジュース、お茶菓子は持ち込み。
３．出席人数目標　：　贈呈式・懇親会は 30 名、夕食会は 15 名

震災復興祈念ブロンズ像贈呈式出席者名簿

No.	区分	氏　　名
1	来賓	メイディ・モーハウス
2		キャメロン・モーハウス
3		ブシェ洋子
4	敬老奉仕会関係	安達　孝代
5		井上　昭吾
6		岡本　仁子
7		黒石　賢
8		小島　脩平
9		斉藤　みさ子
10		佐藤　孝子
11		鈴木　和美
12		鈴木　和晃
13		鈴木　龍郎
14		鈴木　祐子
15		原口　智子
16		古川　明
17		吉永　馨
18		渡辺　雄彦
19	オレンジクラブ	相原　喜代子
20		長田　敏明
21		大脇　京子
22		勝亦　薫
23		加藤　新一
24		加藤　つる子
25		河部　美知子
26		鈴木　健治
27		鈴木　栄
28		舘澤　惠子
29		松戸　敏男
30		松戸　みい子
31		山崎　卓
32		大和　文明
33	GOZAIN	郡司　克一
34		佐藤　実
35		朴澤　公代
36	SIRA	菊池　哲圭
37	個人	菊地　尚志
38		菊地　恵美子

ブロンズ像贈呈式ご挨拶

発起人代表 鈴木健治

皆さん、こんにちは。

本日の贈呈式の発起人は、あとでお見えになります吉永馨さん、朴澤公代さん、鈴木和美さん、そして私、鈴木健治の４人でございます。

僭越ではございますが、私からご挨拶させていただきたいと思います。

本日は、皆様におかれましては、何かとお忙しい中、そしてお寒い中、ブロンズ像の贈呈式にご参加いただきまして、大変ありがとうございました。

そして何よりも、本日の贈呈式にアメリカからはるばるお越しいただいた３人の方々、メイディ・モーハウスさん、そのご子息のキャメロン・モーハウスさん、そしてブシェ洋子さん、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

さて、メイディ・モーハウスさんは、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴ郡デルマー市にお住まいですが、仙台とリバサイドの交流に共感され、リバサイド国際交流委員会の仙台委員会の特別会員になられました。

メイディさんは、一昨年の東日本大震災当日、東京に滞在されておられましたが、強い悲しみと衝撃を受けて帰国されました。そして、その思いを後世の人々に伝えるため、３体のブロンズ像を制作されました。

ここで３体の作品を紹介いたします。名前がつけられておりまして、こちらが「まもる」、こちらが「せんだい」、こちらが「ふっこう」でございます。

それぞれ、「子供を抱きしめて必死に逃げようとする母親の姿」、「恐ろしい出来事に打ちのめされた人たち」、「前向きに粘り強く立ち上がろうとしている姿」を表しております。

メイディさんは、昨年来、これらのブロンズ像を仙台市民のためにぜひ贈りたいと望んでおられました。

様々ないきさつを経て、ブロンズ像はこのたび、「仙台敬老奉仕会」に贈られることになりましたが、将来的にはどこか公的な施設に寄贈されることを期待しております。

それまでは、こちらの鈴木和美さんが主宰する「緑の館絵画を楽しむ会」がお預かりし、展示していくことになりました。

本日、ささやかではございますが、贈呈式を行う運びとなりました。

この会場を快く提供してくださった仙台市や仙台国際センター、他多くの方々のご協力はもちろんでございますが、何といっても「仙台敬老奉仕会」と「緑の館絵画を楽しむ会」の熱い思いがなければ、今日の日を迎えることはできませんでした。

ここに、ブロンズ像を寄贈してくださいましたメイディさん、受贈されました「仙台敬老奉仕会」さん、展示していただく「緑の館絵画を楽しむ会」さん、そして仲介の労をおとりくださったブシェ洋子さんに仙台市民として心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

明日は3月9日でございますが、56年前の明日、仙台市とリバサイド市は国際姉妹都市として提携いたしました。

このような記念すべき時期に、またひとつ両市の絆を深めるイベントを開催することができ、感慨もひとしおでございます。

最後に、ここにお集まりの皆様のますますのご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

震災復興祈念ブロンズ像贈呈式

2013 年 3 月 8 日　仙台国際センターにて

「護る」　　「仙台」　　「復興」

司会：岡本仁子　　発起人：鈴木和美、朴澤公代、鈴木健治

発起人代表挨拶：鈴木健治　　メイディ・モーハウス　ブシェ洋子

メイディ・モーハウス　　ブシェ洋子

受贈者代表挨拶：鈴木和美　　メイディモーハウス　　ブシェ洋子

贈呈式参列者の皆様

贈呈式参列者の皆様

鈴木和美　　通訳：朴澤公代　　鈴木健治

キャメロン・モーハウス　　メイディ・モーハウス

ブロンズ像贈呈式懇親会

2013 年 3 月 8 日　仙台国際センターにて

キャメロン・モーハウス　　メイディ・モーハウス　　藤倉憲子

メイディ・モーハウス　　吉永　馨

メッセージにサインする　メイディ・モーハウス

懇親会でブロンズ像を前にリュート演奏する鈴木健治

懇親会における乾杯

懇親会でメイディさん親子を囲んで

河北新報に載る

河北新報　平成２５年(2013年)３月２１日(木曜日)

再生願ってブロンズ像

米彫刻家、仙台のNPOへ贈る

米国の彫刻家メイディ・モーハウスさん(62)が、東日本大震災からの復興への願いを込めて作ったブロンズ像3体を仙台市のNPO法人「仙台敬老奉仕会」（吉永馨会長）に寄贈した。同市と姉妹都市関係にあるリバサイド市が橋渡し役となり、実現した。

モーハウスさんは、観光のため滞在していた東京で震災を体験。帰宅困難者らが支え合う姿に感動する一方、津波が押し寄せるテレビ映像などに大きなショックを受けた。作品を通じ被災地にエールを送ろうと帰国後、半年かけてブロンズ像を完成させた。

贈り先を探していた2011年冬、リバサイド市と仙台市の姉妹都市関係を知り、両市の交流団体に寄贈を申し出た。話し合いを進め、仙台市側のメンバーと親交があった敬老奉仕会が受け取ることになった。

「まもる」「仙台」「復興」と名付けた3作品は、子どもを抱き締め津波から逃げる母親や、苦難から力強く立ち上がろうとする姿を表現した。

今月8日に青葉区の仙台国際センターであった贈呈式で、モーハウスさんは「作品を通じ、被災地を思っている人が日本の外にもたくさんいることを知ってほしい」と話した。

展示先は青葉区中山台2丁目のギャラリー「緑の館」。連絡先は「緑の館」090（5185）3129。

敬老奉仕会のメンバーにブロンズ像を手渡すモーハウスさん（右）

メイディ・モーハウス　in　仙台

2013 年 3 月 11 日　追悼式参列　仙台国際センターにて

23013 年 3 月 11 日　仙台国際観光交流協会理事長を表敬訪問

013 年 3 月 11 日　タピオ（泉区）でショッピング

013 年 3 月 11 日　タピオ（泉区）でショッピング

2013 年 3 月 10 日　荒浜の慰霊碑

2013 年 3 月 10 日　荒浜の慰霊塔

2013 年 3 月 10 日　荒浜海岸視察（ガイド：故勝亦薫）

2013 年 3 月 10 日　荒浜海岸視察（ガイド：朴澤公代）

2013 年 3 月 10 日　荒浜海岸視察

2013 年 3 月 10 日　加藤新一宅訪問

2013 年 3 月 10 日　荒浜海岸視察を終えて鈴木健治宅にて

2013 年 3 月 10 日　羽織を贈られてご満悦のモーハウスさん親子

2013 年 3 月 10 日　夕食後卓球を楽しむ

2013 年 3 月 10 日　キャメロンさんの手打ちそばで夕食

2013 年 3 月 12 日　仙台を発つ（新幹線ホームにて見送り）

2013 年 3 月 12 日　さようならメイディさん

ブロンズ像 10 年の歩み

2013 年 5 月 18 日　緑の館絵画を楽しむ会展示室にて

2013 年 5 月 18 日　ブロンズ像を前にリュートを弾く鈴木健治

2014 年 3 月 11 日　東北福祉大けやきホールロビーに展示

2014 年 5 月 24 日　鈴木健治宅にて

2014 年 7 月 26 日　緑の館絵画を楽しむ会展示室にて

2014 年 9 月 14 日　新老人の会　第 8 回ジャンボリー宮城大会
日野原重明・聖路加国際メディカルセンター理事長
（仙台サンプラザ）北福祉大学「けやきホール」

2014 年 9 月 14 日　新老人の会　第 8 回ジャンボリー宮城大会
（仙台サンプラザ）

2015 年 5 月 30 日　ベイリー・リバサイド市長歓迎パーティーにて

2015 年 5 月 30 日　ベイリー・リバサイド市長歓迎パーティーで

2015 年 11 月 16 日～21 日　相馬高校美術展にて

2016 年 10 月 10 日　せんだい地球フェスタ 2016 にて
（仙台国際センター展示棟）

2018 年 8 月 25 日ブロンズ像を囲んでの癒しのピアノコンサート
緑の館仙台絵画展示室

2019 年 1 月 13 日　　鈴木健治　メイディ・モーハウス
モーハウス宅（サンディエゴ）

2019 年 1 月 13 日　　鈴木健治　メイディ・モーハウス　ブシェ洋子
モーハウス宅（サンディエゴ）

2019 年 1 月 13 日　モーハウス氏のアトリエ
（ブロンズ像はここで生まれた）

2020 年 7 月 3 日　仙台敬老奉仕会理事長　吉永馨来訪

2021 年 2 月 27 日　浅野純子　ブロンズ像を前にピアノ演奏

2022 年 10 月 8 日
「第 7 回絵画とリュートを楽しむ会」でブロンズ像を紹介する鈴木和美

2022 年 10 月 8 日
絵画・ブロンズ像の前でリュートを奏でる鈴木健治

2022 年 10 月 8 日　ブロンズ像とともに　鈴木和美　鈴木健治　朴澤公代

“東日本大震災復興祈念ブロンズ像 10 年の歩み”に寄せて

ブッシェー・洋子

　1951 年５月に数人の女性が仙台の Army Hospital（国連病院―現在(株)かんぽ生命 保険仙台サービスセンター）を訪問し入院している GI（負傷した国連軍兵士）達に母の日の愛と負傷した息子達を案ずる母親へ同情のメッセージと一緒にカーネーションの花束と大学婦人協会特製 の「母の日」のカードを持ってお見舞い訪問をしました。
その時入院していた Cpl. James Halverson が送られた「母の日」のカードをリバーサイド市在住の母、Jessie Halverson に送り、感激された彼女がメンバーであった AAUW を通して Army Hospital 訪問のリーダーで JAUW (大学婦人協会)の仙台支部の支部長,大脇静江女史と懇意になり、仙台リバーサイド奨学会を設立し正式な交流が始まりました。

　その５年後、**1956** 年９月 **11** 日に米国の姉妹都市制度が **34** 代アメリカ大統領ドワイト・D・アイゼンハワーにより市民外交を提案したことで開始されました。
To promote peace through mutual respect, understanding, and cooperation – one individual, one community at a time.
　仙台市ーリバーサイド市の市民交流はアメリカで姉妹都市制度が設立される５年前から始まっていました。
正式な姉妹都市提携は 1957 年３月９日、今年で 65 年です。

　この姉妹都市交流のきっかけとメイディ・モーハウス女史のブロンズ像制作のきっかけは類似点があります。それは女性の心から生まれたものであり、その同情と感動は多くの人々に受け止められ受け継がれてゆくでしょう。
私は東日本大震災を経験された方が、この３ブロンズ像の前で長い間じっと佇まれていた事を聞いたとき、震災の経験のない私までも、この像の一つ一つに悲しみと感動をおぼえたことを思い出しました。

特に、**Fukkou** 復興　は大震災から立ち上がろうとしておられる人たちを思わせられます。大震災から１０年以上経て、仙台の海岸沿い、街はきれいに整備されていますが、今も災害時のことを思い復興に努力されている方々もいらっしゃるでしょう。
人間の個人的な経験と記憶は限られています。でも、この３ブロンズ像に託された女性彫刻家の日本での経験を通して表現されている恐怖、不安、希望は大震災を経験されていない人の心にも理解されると信じます。

この３体のブロンズ像が仙台市民の方々はじめ、より多くの人達に鑑賞され、感銘を与えられることを願っております。

仙台リバサイド交流連絡会 会長　鈴木健治
☏ 080-3334-5932　http://orangeclub.ciao.jp
緑の館絵画を楽しむ会　代表　鈴木和美
☏ 090-5185-3129　https://midorinoyakata.xyz/

初版　2023 年 1 月 15 日発行